

絶滅危惧類 オトギリソウ科

ミヤコオトギリ

Hypericum kinashianum Koidz.

【選定根拠】 全ての個体群で個体数が減少

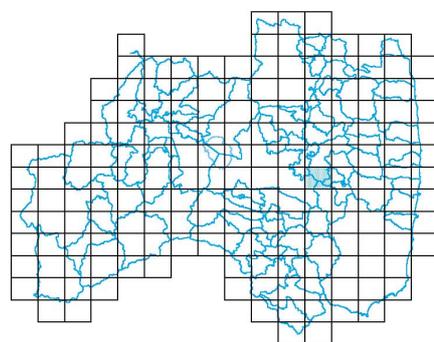
【形態】 多年草で無毛。茎は円柱状、直立し、ときに上部が分枝し、高さ20～60cm。オトギリソウに似ているが、葉の幅が狭く、長楕円状線形ないし線形、黒点が入る。花期は7～8月。花は小さく径8～12mm、花弁は長さ4～7mmでがく片より明らかに長く、がくや花弁に黒腺が入り、花柱は子房より長い。さく果は卵形、5～6mm、種子は微細な網紋がある。

【分布】 本州(関東以西)～九州に分布する。

【県内の分布、生育状況】 中通り地方、会津地方の一部の地域に分布し、山地の川沿いなどにごくまれに生育している。

【生育に影響を与えている要因】 遷移進行 園芸採取

【特記事項】 生育地の環境を保全するとともに、鑑賞のための採取・販売・栽培をしないことが望ましい。



絶滅危惧類 モウセンゴケ科

コモウセンゴケ

Drosera spathulata Labill.

【選定根拠】 全ての個体群で個体数が減少

【形態】 多年草。根出葉の葉身は広倒卵形で、幅2.5～3.5mm、表面に紅色の長腺毛があり、基部はくさび形で、柄はやや幅広く、葉身の約2倍長い。花期は6～9月。高さ5～15cmの花茎が出て、数個～十数個の花が総状につき、花序とがくに短い腺毛がある。花序の先はわらび巻き状で、花は片側につく。花弁は淡紅色、花柱は先が2深裂し、柱頭は頭状。さく果は球形で径約1.5mm。

【分布】 本州(宮城県以南)～沖縄県、中国・東南アジア・オーストラリアに分布する。宮城県亘理郡が北限である。

【県内の分布、生育状況】 浜通り地方の限られた地域に分布し、海岸近くの日当たりの良い酸性の湿地に生育している。

【生育に影響を与えている要因】 海岸開発、園芸採取

【特記事項】 生育地の環境を保全するとともに、鑑賞のための採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

